

令和5年度 事業報告書

1. 事業の概況

昨年度は大幅な円安による物価の高騰が進み、中国経済が低迷したことなどにより、令和5年の大阪港のコンテナ貨物量は198万TEUとなり、7年ぶりに200万TEUを下回りました。

このような中、当協会の主要財源である港湾福利分担金収入は1億8,380万円となり、前年度に比べ990万円減少しました。

一方、事業収入では、食堂事業でウイング舞洲の食堂の利用者が前年度比で21.3%増えたことから、売上収入は448万円増え、約2,250万円になりました。さらに、住宅事業では、第2入舟住宅の室内リフォーム工事が完成した部屋の入居者募集を行ったことから、事業収入は214万円増え、約7,460万円になりました。

事業活動の福利推進事業では、協会創立80周年を記念した1,500人規模の特別企画を実施したことから、令和5年度の利用者は8.0%増え、15,987人となりました。

施設整備事業では、(一社)日本港湾福利厚生協会から9,500万円の助成を受け、第2入舟住宅の20戸の工事を行いました。さらに、市内3ヶ所、府下3ヶ所の食堂において事業者の入れ替えがあったため、協会の独自事業として、それに伴う改修工事を実施しました。

また、本年度は第2入舟住宅の工事費の補填のために、住宅整備準備資金から5,500万円を取り崩しましたが、決算見込みが良好であったことから、1,200万円を積立て直しました。これにより、住宅整備準備資金の積立合計額は約2億4,000万円となりました。

以上の結果、令和5年度収支計算書における収支差額は、約720万円の黒字となりました。

今後とも港湾労働者のニーズを的確に把握し、その期待に応えるべく事業運営を推進してまいりますので、関係の皆様方の引き続きのご支援、ご協力をお願い申し上げます。